琉球・沖縄 年中行事 なんでも？！ Q&A

沖縄のトートーメーと県外のお位牌

●Answer
沖縄市・コザ山球陽寺（きゅうようじ）前住職（ぜんじゅうしょく）
帰依 龍照（きえ りゅうしょう）

Q 20年前に横浜へ引っ越したとき、近所の和尚さんに法事をお願いしたら、「これは仏教ではないのでお経は読めない」という理由で、トートーメーを内地式の位牌（いはい）に交換させられました（ちなみに交換したのはトートーメーのみ、香炉などはそのままです）。今年、横浜を引きはらい沖縄へ帰るのですが、親戚のおばさん達から「トートーメーを捨ててしまった親不孝者！」と非難されています。私は、バチが当たるようなことをしてしまったのでしょうか？（東村・S家・70代・男性）

A このようなご相談は、よく承るケースです。横浜や東京の関東圏のみならず、沖縄県外へ引っ越しされますと、今までの常識であった沖縄のしきたりというウマイジマ（出身地）の考え方が、なかなか先方さまに理解してもらえないことがあるかもしれません。お仏壇やお墓の仏事の際、今回のご相談のように、沖縄のトートーメーについてもそれが顕著に表れることがあるといいます。

沖縄のトートーメーはなに教？

その和尚さまがおっしゃられました「トートーメーは仏教ではない」とのお論しは、ある意味、理にかなっていると思います。宗教学・仏教学の見地から、トートーメーも含まれる位牌（イフェー）の原点は、仏教より儒教的要素が多いとの学説があります。これは、中国の儒教思想として「故人の魂は死後も生き続け、先祖となり私たちを見守ってくださる」との考えに由来しています。

その象徴として、故人さまのお名前が記載された木札をお祀りし、遺族は死後も木札の故人さまを心の糧として敬っています。これが沖縄でいう、トートーメーと考えられて差し支えないかと思います。

一方、成仏という、自らの悟りをひらき、他の悟りも導くことを中心とする仏教では、本来、位牌は存在しませんでした。しかし、時代とともに父母恩重（ぶもおんじゅう）という親孝行など、身近で大切な方々の死後を尊ぶ儒教の考え方が仏教にも浸透していき、やがて仏教でも儒教の位牌を使用するようになったといいます。

トートーメーの始まりは、中国福建省から伝わったという説、中国から本土にわたり、その後、沖縄に伝わったという説、いずれもその間にそれぞれの宗教の長所がアレンジされていったのでしょう。

トートーメーから県外の位牌へ、県外の位牌からトートーメーへ

今回、沖縄から横浜へ行かれた際、和尚さまのご指導でトートーメーを県外の位牌に遷座する（変える）ことができたのですから、逆も然りと考えられたらいかがでしょうか。その順序を次にまとめてみました。

①新しいトートーメーを購入し、ご寺院さまか仏壇店などで、現在のお位牌に記入されている法名（戒名の場合もあります）、俗名（故人さまのお名前）、死亡年月日、行年（享年）などを書き込んでいただきます。

⇐

②ご寺院さまや沖縄のしきたりに詳しい方などをご案内して、現在のお位牌の遷座式（お性根抜き）と新しいトートーメーの入仏式（お性根入れ）を執り行います。

⇐

③県外のお位牌を焚き上げ、お仏壇のウコール（香炉）の中に灰を3回に分けて入れます。

これで、県外のお位牌からトートーメーへ切り替わったと考えられます。

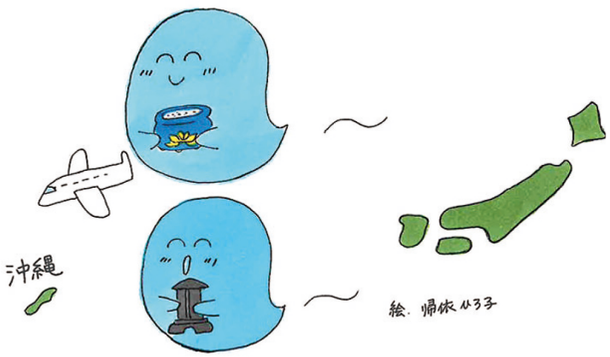
時間的に余裕がありましたら、ユンヂチ（閏月）・タナバタ（七夕）などを考慮します。時間がなければ、まずは県外のお位牌のまま、沖縄へウンチケー（案内）し、その後、ユンヂチ・タナバタなどの時節を判断し、トートーメーに切り替えます。

遺灰尊重主義

このような順序の根底には、沖縄のしきたりを代表する『遺灰尊重主義』という考え方が存在します。お位牌やご遺骨の移動や切り替えは、今まで多くの方々から尊いご焼香を賜った証しである〝灰〟をもって終了するという考え方です。

今回、幸いにも、交換したのは県外のお位牌だけとのことですので、大切なウコールの灰はトートーメー当時のまま、新しいトートーメーも、横浜へ引っ越し前に敬っていたトートーメーと考えられて差し支えないかと思います。

ウコールの灰が同じということは、横浜の和尚さまがご供養された県外のお位牌も、これから沖縄で敬うトートーメーも、ひとしく尊いお位牌であることがありがたいですね。



帰依　龍照（きえ　りゅうしょう）
1968年岡山県出身（51歳）／学歴：岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒／専門分野：哲学（宗教哲学）／沖縄県宗教研究会・理事長／沖縄県内にて年間多数の住宅・墓の起工式（地鎮祭）を担当しつつ、沖縄県内各市町村の団体・企業・学校における『琉球・沖縄の年中行事・葬式・法事』に関する講演活動を行う。最近、長男の住職が結婚し、初めて娘（お嫁さん）に恵まれました。

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q＆A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。